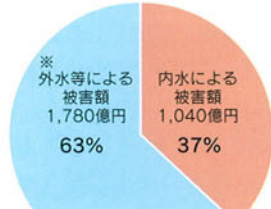


3 九州の浸水被害の現状と課題

浸水対策

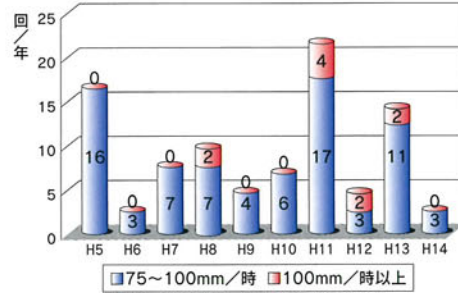
九州7県における 過去10年間の内水被害額



(平成4～13年度 水害統計)

※外水被害: 川の水が堤防のなかを流れきれずにあふれたりしてまちに流れ込むことによる浸水被害をいいます。

増加する短時間豪雨



現状

●まちに降った雨が河川へスムーズに流れ出ることができないことによる、浸水(内水)被害額は、九州全体の浸水被害額の約37%を占めています。

●人口・産業の集積する都市においても多数の内水による浸水被害が発生しており、その対策が求められています。

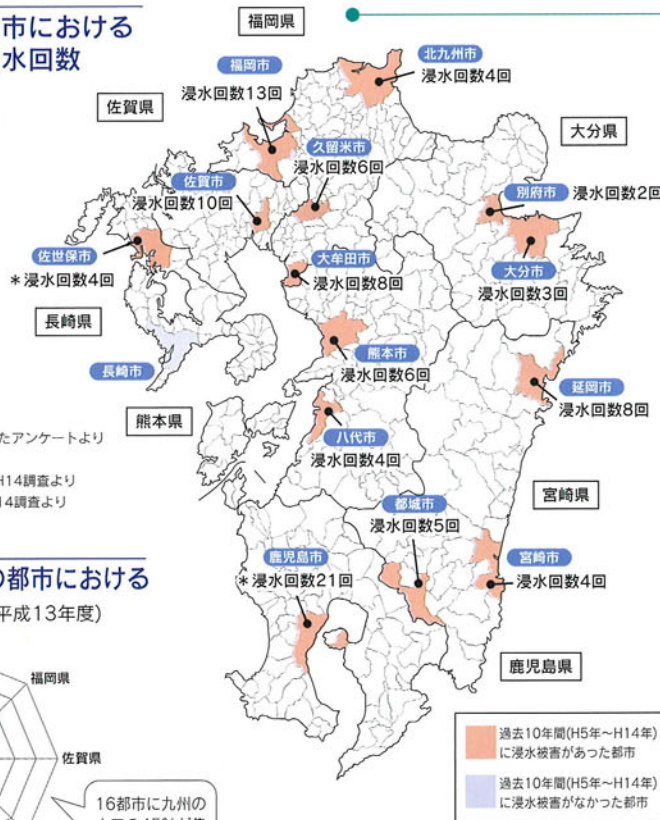
特に近年は集中豪雨の発生頻度も増加していることに加え、開発等により雨水の浸透が阻害され、上流からの雨水流出量が増大していると考えられます。

※下水道による雨水計画を策定しようとする地域は市街化区域あるいは今後市街化が予想される区域。

10万人以上の都市における 過去10年間の浸水回数

都市名	床上浸水戸数	床下浸水戸数
北九州市	11	30
福岡市	1,076	3,167
久留米市	22	256
大牟田市	49	554
佐賀市	20	675
長崎市	0	0
佐世保市	7	96
熊本市	194	1,259
八代市	13	85
大分市	1,020	2,925
別府市	0	3
宮崎市	585	1,770
都城市	215	434
延岡市	955	1,307
鹿児島市	386	1,545

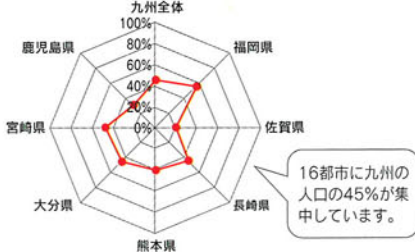
※10万人以上の都市を対象としたアンケートより
 ※島しょ部は除く
 ※佐世保市の浸水回数はH13～H14調査より
 ※鹿児島市の浸水回数はH6～H14調査より



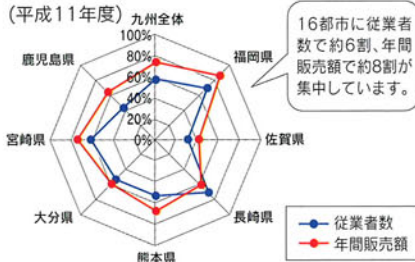
課題

●増加する集中豪雨による都市型水害への対応のため、下水道整備による緊急的な雨水対策が求められています。

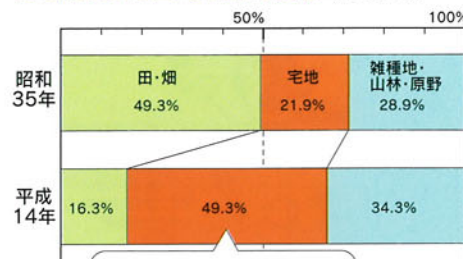
人口10万人以上の都市における 人口の集積状況 (平成13年度)



人口10万人以上の都市における 産業(商業)の集積状況 (平成11年度)



宅地化による土地利用の変化 (福岡市の例)



※小数第2位を四捨五入しているため合計は100%になっていません。

都市型浸水状況

